

特集 東日本大震災から10年 命を守る 地震への備え

平成23年3月11日の東日本大震災から、間もなく10年を迎えます。今年の2月13日には、東北地方で最大震度6強の地震が発生し、今後も大規模な余震が懸念されています。私たちの住むまちでも、巨大地震がいつ発生するか分かりません。

今回の特集では、命を守るために必要な「自助・共助・公助」の役割や取り組みを紹介します。自分や家族だけでなく、地域全体を守るために、日頃から防災対策に取り組みましょう。

詳しくは、危機管理室（☎47-7385）へ。



総合防災訓練の様子

想定される巨大地震

▶南海トラフ巨大地震 30年以内の発生確率 70~80%

大垣市の被害想定（冬の朝5時に発生した場合）

最大震度	建物全壊数	死者数
6強	5,000棟	150人

マグニチュード9.0の南海トラフ巨大地震が発生したと想定。市全域が震度5以上であり、特に大垣地域は広い範囲で6弱から6強、墨俣地域では、全域で6強の強い揺れが予想されます。

地震調査研究推進本部（文部科学省）によると、マグニチュード8.0~9.0規模の地震が30年以内に発生する確率は、70~80%とされています。



南海トラフ巨大地震の想定震源域

▶養老-桑名-四日市断層帯地震

大垣市の被害想定（冬の朝5時に発生した場合）

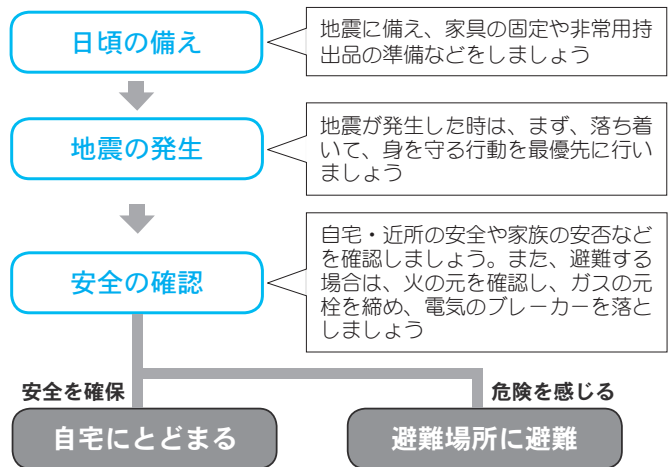
最大震度	建物全壊数	死者数
7	24,000棟	1,300人

大垣市周辺には養老山地と濃尾平野の境界、養老山地の南に続く丘陵地の東縁に沿って、垂井町から四日市市まで延びる約60kmの断層帯があります。この断層帯でマグニチュード7.7の地震が発生したと想定。断層が直下または直近にあるため、大垣・墨俣地域の広い範囲、上石津の一部地域では、震度7の非常に強い揺れが予想されます。

地震調査研究推進本部（文部科学省）によると、マグニチュード8.0程度の地震が30年以内に発生する確率は、ほぼ0~0.7%とされています。

地震が起きたとき取るべき行動

大地震が発生したとき、自分や家族の身を守るために、どのような行動を取るべきか確認しましょう。



防災士からのメッセージ

災害発生時に、すでに勝負がついている！

私は被災地に立った経験より、いかに「防災」について分かりやすく伝えるかを考え、地域の防災力UPのためにサポートしています。万物は自然の摂理には逆らえず、人が住むから災害となります。「事前の一策は、事後の百策より勝る。」の通り、発災後に慌ててもどうにもなりません。まずは自分が必要となる防災の検討や対策を行い、「自助」で大切な命が守れたならば、ようやく防災の知恵や備えなどが役立ち、「共助」や「公助」にもいきけます。



NPO法人防災支援ネットワーク 副理事長・防災士 高根澤 優さん

自助・共助・公助の連携が命を守る！

災害による被害を最小限に抑えるためには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域で助け合って取り組む「共助」、行政が取り組む「公助」の3つの連携が重要です。

一般的に災害時の助けとなる割合は、自助=70%、共助=20%、公助=10%といわれています。災害の規模が大きくなればなるほど、行政の対応力は小さくなり、自助と共助の重要性が高まります。防災白書（内閣府）によると、阪神淡路大震災では、約8割の人が家族や近所の人たちに救出されており、「公助」である救助隊による救出は約2割程度に過ぎなかったという調査結果があります。いざというとき頼りになるのは、自治会や地域の住民です。普段から災害に備え、家庭や地域で防災・減災について話し合きましょう。

